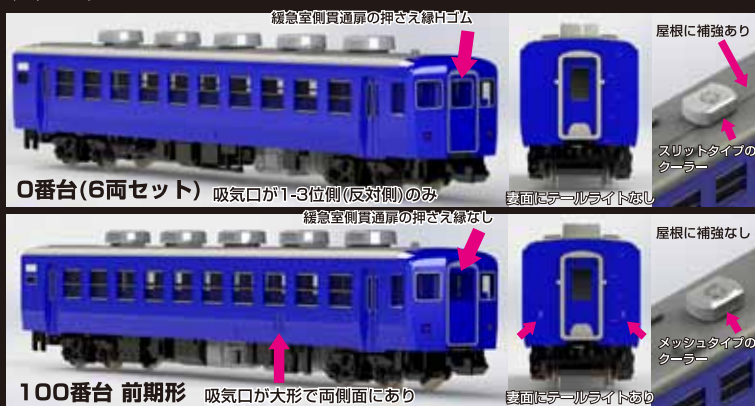


スハフ12

※画像はいずれも試作中の製品になります。



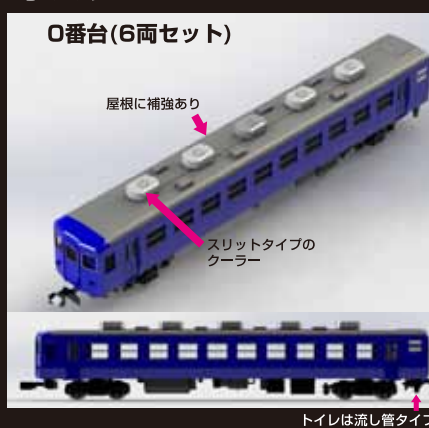
オハ12

※画像はいずれも試作中の製品になります。



オハフ13

※画像はいずれも試作中の製品になります。



12系客車がフルリニューアルで登場

12系でたのしむ客車列車

4月
2019年

8月発売予定	
N 12系急行形客車 国鉄仕様	
6両セット	10-1550 ￥13,000+税
N オハ12 国鉄仕様	
5302	￥1,750+税
N スハフ12 100 前期形 国鉄仕様	
5304	￥2,200+税

今回の12系はリニューアルにあたり、ディテールが向上したのももちろんですが、番台ごとの細部の違いを追求したのが大きな特徴です。単品のオハ12は後期形、スハフ12は100番台の前期形、6両セットは0番台をプロトタイプとしており、屋根の補強の有無、スハフ12車体側面の吸気口の大きさや位置の違い、メッシュタイプのクーラーとスリットタイプのクーラーの違いなどの形態差をお楽しみいただける製品になっています。昭和55年(1980)頃の姿がプロトタイプで、国鉄時代の12系に見られるJRマークのない車体や車端部に備わるトイレが流し管タイプになっているのも特徴です。より詳細な製品のディテールにつきましては、試作品が出来た際にWEBなどで紹介させていただきます。

リニューアルした12系を楽しむ際の参考として、往年各地で見られた編成を下記にまとめさせていただきました。これに限らず、雑誌や写真、動画などの資料を参考にお好みの編成を再現したり、お手持ちの機関車で手軽に運転を楽しむなど思い思いの形で12系客車を楽しまししょう。



12系におすすめの牽引機

N EF65 1000 前期形 3089-1 ￥7,200+税

12系急行形客車のリニューアルに合わせて、EF65 1000前期形が登場します。12系の牽引機としての運転はもちろん、貨物から旅客まで幅広く活躍する機関車です。製品には「あけぼの」と「つばさ」のヘッドマークが付属していますので、これらの列車を再現したい方にもおすすめです。上越線で貨物列車を牽引した際には、途中でEF16が前補機について運転された例もあり、他形式との重連運転もお楽しみいただける車両です。

編成例

	オハ12 : 6両セット	オハ12 : 単品
・「八甲田」(昭和54年4月～昭和60年2月)	スニ41	スハフ12 オハ12 オハ12 オハフ13 オハ12 オハ12 オハ12 オハ12 スハフ12 青森→
・「十和田」(昭和50年3月～昭和53年2月) (昭和57年11月～昭和60年2月)	スハフ12	スハフ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハフ13 スハフ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハフ13 青森→
・「十和田」(昭和55年10月～昭和57年10月)	マ337	オハ10 スハフ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハフ13 スハフ12 オハ12 オハ12 オハ12 スハフ12 青森→
・「ばんだい」「ざおう」 (昭和50年冬など)	スハフ12	「ばんだい」 上野～会津若松 「ざおう」 上野～山形 上野→ 会津若松→ 山形→
・「エキスポライナー」 (昭和60年3月～昭和60年9月)	スハフ12	スハフ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハフ13 スハフ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハ12 土浦→
・「音戸51号」(昭和44年夏)	スハフ12	スハフ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハ12 スハフ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハ12 スハフ12 大阪→
・「但馬ビーチ」(昭和47年夏)	スハフ12	スハフ12 オハ12 オハ12 オハ12 スハフ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハ12 オハ12 大阪→
・「日南」(昭和61年11月～昭和62年3月)	スハフ12	スハフ12 オハ12 オハ12 オハ12 スハフ12 オハ12 スハフ12 門司港→ 宮崎～西鹿児島間は普通列車
・「かいもん」(昭和61年11月～昭和62年3月)	スハフ12	スハフ12 オハ12 オハ12 オハ12 スハフ12 オハ12 スハフ12 門司港→
・団体列車の例	スハフ12	スハフ12 オハ12 オハ12 オハ12 スハフ12 オハ12 スハフ12

8月発売予定

N しなの鉄道115系

3両セット 10-1571 ¥11,300+税

しなの鉄道株式会社商品化許諾申請中

New



しなの鉄道の115系

4月
2019年

景観豊かな信州の山間を 駆ける115系

かつては碓氷峠を越え、長野を目指した特急列車が行き交った信越本線は、平成9年(1997)の北陸新幹線の長野駅開業に伴い軽井沢〜篠ノ井間が第3セクター化される形で開業したのがしなの鉄道です。平成27年(2015)の北陸新幹線金沢駅開業では長野〜妙高高原間が第3セクター化され、同じくしなの鉄道の北しなの線としてこの区間の旅客輸送を担っています。しなの鉄道では信越本線時代と変わらず115系の活躍する姿を見ることができ、また同鉄道で最後の活躍を見せた169系や、碓氷峠を駆けつけたEF63も保存されています。北陸新幹線をほじめ小海線、篠ノ井線、飯山線、私鉄では上田電鉄と長野電鉄、えちごトキめき鉄道に接続しており、個性豊かな多くの車両との共演が見られます。自然豊かな山間の風景は四季折々で異なる表情を見せ、その中を駆けていく115系の未だ衰えない足取りは頼もしく、信州の鉄道の要衝を力強く支えています。今回は特徴的なしなの鉄道オリジナルカラーの3両編成、「信州デスティネーションキャンペーン」及びしなの鉄道開業20周年で登場した「懐かしの車体カラー」のうちの湘南色と横須賀色を製品化、現役で活躍を続ける115系がNゲージに登場します。信州の景色の中を行く、個性あふれる115系たちを揃えて、しなの鉄道の世界を楽しみましょう。

しなの鉄道運行区間



えちごトキめき鉄道
ET122系



E7系北陸新幹線
「かがやき」



383系
「ワイドビューしなの」

写真: 川崎大輔

N しなの鉄道115系 (湘南色/横須賀色)

6両セット 10-1572 ¥22,600+税

8月発売予定

しなの鉄道株式会社商品化許諾申請中 JR 東日本商品化許諾申請中

特別企画品

New

特別な115系も、 同時に製品化

しなの鉄道で活躍する115系の中には、しなの鉄道オリジナルカラーのほかに、現在様々なカラーリングの115系が活躍しています。その中で平成29年(2017)に開催された「信州デスティネーションキャンペーン」及びしなの鉄道開業20周年に合わせて登場したのが、かつて115系がまっていた懐かしの車体色を再現した編成です。KATOではその中から湘南色と横須賀色のセットを発売いたします。鉄道模型の世界ではお馴染みのカラーリングですが、3両編成でシングルアームパンタグラフを装備しているのが、しなの鉄道の車両ならではの大きな特徴です。横須賀色と湘南色の編成の併結や、しなの鉄道オリジナルカラーの編成との併結で活躍する姿も見られ、もちろんNゲージでの再現も可能です。付属の行先表示シールは普通列車から臨時列車の運用まで幅広く収録する予定で、お好みの姿でお楽しみいただけます。



写真: 上坂 暢一



写真: 川崎大輔